

第17号

# 心ア山峯

題字:渡辺寒鷗



富士桜に富士五湖

五つの峰は、礼儀  
知性・健康・友情  
創造の目標を表わす

## 「河高生の成長」を支えて

校長 小俣 義一

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今年度は紫光祭文化部門受付、マナーアップ運動、フードドライブ、学校清掃活動等において、多くの方々のご協力をいただきました。おかげさまで、生徒たちも充実した学校生活を送ることができています。



さて、今年度はコロナ感染症が5類へ移行し、全校集会や「探究の時間」の校外活動の復活など、学校生活も徐々に活気を取り戻してきました。また、部活動においては、県総体女子総合6位入賞、漕艇・カヌー全国総体出場、放送の全国NHK杯出場をはじめ、多くの部が関東大会へ出場するなど、生徒は様々な活動を通して日々成長しています。

私たち教職員は、今後も保護者や地域の皆様と連携し、教育方針「心のゆたかな人間を育てる」の実践を継続していきます。そして、心身とも健やかに成長し、「自信と誇り」をもってさらに活躍できるよう、河高生の成長を支えてまいりますので、引き続き、保護者の皆様の暖かいご支援・ご協力をお願いします。

## 禍転じて福と為す

PTA会長 外川 真介

コロナウイルス感染症も5類に移行して、本来の生活を取り戻しつつあります。感染症に悩まされたこの数年は「わざわざ」だと表現されますが、果たして禍ばかりであったのでしょうか？様々な不自由を実感したからこそ、今までおざなりしてきた事柄にまで目を向け精査せざるを得ない状況に追い込まれ、恒例や習慣の中に隠れた無駄を再認識させられた事は一言で「わざわざ」だけではなかったのではないのかと思います。



PTAの活動も昨今の少子化や会員数の減少に伴って、今後益々活動や運営が厳しくなってくると予想され、既にその様な事態に陥りつつある事例も耳にします。懸案が露呈しそれを解決に向け模索していかなければならない状況をわざわざと例えるなら、厳しい状況の中、学校と保護者が密に連携して禍の中に隠れた福を見逃す事なく答えを導き出さざるを得ないこの機会こそ、PTA活動として子供たちにしっかり還元できるより良いものになる筈だと思います。

今後とも子供たちの未来の為、PTA活動にご参加、ご協力いただきたくお願いいたします。



高校時代の学びや経験は、生きる上での土台になると思うので、勉強や部活への取り組みや、仲間との時間を大事にできる河高生になってほしいと願っております。私たちが保護者もPTA活動を通して、子ども達が充実した三年間を過ごせるように応援していきます。

四月八日、桜の花が咲きこぼれる中、春風が心地良い日、第四十七期生入学式が執り行われました。

「希望」

一学年女性理事

山中 文  
武川 綾